

商店街の活性化 －既存の建物を活用して－

駒見行彦（令和研究会）

問 商店街に企業誘致をするということが都市計画の取組の中に合致してくると考える。
　商店街を屋外のショッピングモールに見立て、既存の市内業者へ出店を依頼し、足袋屋さんや市内にある牛乳工場の直営で出来たての商品を販売したり、果物屋さんが出店しジェラートなどを販売する等、既存のものを活用した方が良い。
　さらにはものつくり大学にもそれらを建築する時や改修する時に依頼をすることで、まちが活性化していくのではないか。

答 まちなか、特に商店街の活性化については現在、新たに起業する人などを中心に支援を行っている。またこのたび店舗併用住宅を貸し出せるような方向で取り組めないかという新しい事業も始めた。
　ご提案の内容に加えて市内事業者の活用、また若者、いろいろな方にまちなかに関わっていただいて商店街を活性化していくアイデアである。
　今後、事業を検討していく上で参考にさせていただく。



ナガエツルノゲイトウの早期発見・早期駆除で予防を

斉藤博美（日本共産党）

問 ナガエツルノゲイトウは、茎や根のわずかな断片で再生する強い繁殖力を持ち、水路や河川の流れを阻害し、農業にも影響を及ぼす。国・県に比べ市の認識は薄い。その危険性をどう認識しているか。

答 早期発見・早期駆除が基本であると認識している。

問 熊谷市での確認を踏まえ、行田市への侵入可能性も十分にあると考えるが市はどうか。

答 水路からの侵入は十分に可能性がある。市内の発生は現在なく、独自調査も未実施。（質問後市内の水田でも確認）。

問 侵入前から市民などの協力による早期発見が必要では。市公式ＬＩＮＥの通報から写真や発見場所を送れる仕組みを作ってはどうか。

答 活用を検討していく。

問 特定外来生物に対する国の交付金がある。防除や、啓発・調査も対象。警戒すべき外来種リストを作成しては。

答 交付金も含め、有効な取組について研究していく。

〔その他の主な質問〕

○都市計画税は公平なのか



自主財源確保のために！ 広告収入の拡大を

福島ともお（令和研究会）

問 自主財源確保のために、少しでも広告収入を増やしたほうがよいと考えるが、広告収入について現状はどうなっているのか。

答 市報ぎょうだや市ホームページをはじめ、本庁舎正面入り口付近や市内循環バスに設置した広告つきモニターなどのデジタルサイネージへの広告掲載を行っており、昨年度の広告収入は２２１万６千円となっている。

問 広告媒体を広げていく考えはあるのか。

答 将来にわたって持続可能な行政運営を実現するためには、自主財源の確保という視点から広告収入も重要である。
　一方で、公共施設や観光資源などを新たに広告媒体として利活用する場合においては、住民の理解や他の事業者への影響等を踏まえ、慎重に判断する必要がある。



デジタルサイネージ